

昔話の語り記録における大分方言の可能表現

松 田 美 香

【要 旨】

九州各地の方言における可能表現形式は多数あるが、大分方言には特に多い。昔話を聞き書きした大分方言資料から可能表現形式を抽出し、心情可能、能力可能、外的条件可能、内的条件可能という意味の下位分類のラベルをつけて整理したところ、助動詞（ラ）ルルの用例数が多く意味範囲も広いことがわかった。また、キルやコナスは能力可能専用形式、可能動詞も能力可能が中心の形式だが、二重可能形は広く可能の意味範囲の全般にわたっていることが予想される結果となった。

【キーワード】

大分方言、可能表現、可能動詞、変遷、昔話の語り

1. はじめに

筆者は、ここ数年、大分方言における可能表現に注目し、最近は特に可能動詞の変遷を探ろうとしている。大分方言の可能表現を示す形式は、他地域に比べて多いと言える。動作主体の**能力可能**を表すとされる～キル、動作主体外の条件による可能(**外的条件可能**)を表すとされる～(ラ)ルル、一時的な条件による可能(**内的条件可能**)を表すとされる可能動詞の未然形+ルル、他に可能動詞、～ダス、～コナス、～ウス(オース)や南部ではヨー+動詞(否定の場合は動詞否定形)など、数えれば8種類にもなるのである。特に先の3つの形式が、それぞれ異なる可能の意味の分担(太字の意味)をしているという見解が、糸井・種(1977)などの先行研究にある。神部宏泰(1986)では九州方言における可能表現の歴史の変遷に触れ、大分方言においては可能動詞が～キルよりも古く、古い方の可能動詞がより「主情性」を帯びた意味を持っていると述べている。これに対し、渋谷(1993)や木部(2004)では、大分方言における可能動詞は決して古くなく、他の九州各地と同様に新しい形式であって、特定の意味範囲を担当できないでいる状態だと異説を唱えている。

渋谷(1993)では「可能の条件スケール」を示し、ある方言に可能を表す形式がいくつかあるとすれば、それらはこのスケールの中で次第に担当が移り変わっていくようなくみであるとした(図1)。図1の帯は、意味の担当のしかたの一例である(筆者作成)。スケール上の、意味範囲の並べ方の基準は、主体の力や主体の判断など、「主体とそれぞれの条件との密着度」「不可分

性)」によっている。最も左に位置する**心情・性格（可能）**は、主体との密着度が最も高い条件になるということの意味している。外的強制は主体の判断が及ばないことから、最も右に位置するわけである（「自発」など）。

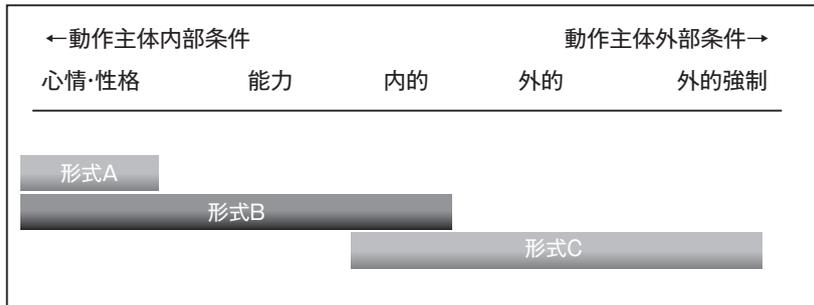


図1 渋谷 (1993) より「可能の条件スケール」 ※形式 A~C の帯は筆者作成

日高 (1983) では、大分県東部の国東半島でも可能表現の「三分区」の傾向があることを報告している。それによると、可能動詞あるいは可能動詞+レル (ルル) は主観状況可能の形式であるという。主観状況可能とは、状況による可能の下位に客観的な状況と主観的な状況とで区別があるとするもので、先述の内的条件可能とほぼ同一のカテゴリーと考えるもよいと思われる。

さて、大分方言の可能動詞やその変化形である可能動詞+レルの形(以降、**二重可能形**と呼ぶ)の実態を知るために、臨地調査として松田 (2004, 2007) を行ったが、ある程度の傾向は認められたものの、体系としてとらえるところまで至らなかった。臨地調査とは異なるアプローチとして、古い口語資料から可能表現を探ってみることも必要だと思われる。今回は、大分方言を記録した数冊の「昔話語り」の本から、可能表現を取り出してみることにした。

2. 方言関係文献資料調査

2-1. 調査対象

大分方言による語りの資料となる、3冊の本を対象とする。どの本にも、当時の昔話の語り口をそのままに残そうとした編著者の意図が巻末等に述べられている。文章中、わかりにくい方言の表現には注が施されていることから、方言をそのまま書き取ろうとしたことが窺える。したがって、この3冊については、わかりやすさを追求するあまり方言に手を加えることは決してしていない資料だと考えていいだろう。以下、3冊の書名、編著者、出版年、出版社を挙げる。

- ①『語りによる日本の民話7 豊後・杵築の民話～重安アサエの語り～』
土屋北彦編著 (1988年 国土社)
- ②『大分のむかし話』大分県小学校教育研究会国語部会編 (1997年 日本標準)
- ③『国東半島の民話』芥川龍男・渡辺宏紀共編 (1990年 文献出版)

①は、大分県北東部の杵築市の当時83歳 (1904年生まれ) の女性、重松アサエ氏の語りを大分県の民話収集家である土屋北彦氏が聞き書きしたものである。②は県内各地から数話ずつを各地域の小学校国語科教員が手分けして採取したもので、話し手は各地在住の当時37～92歳の男女、③は、県北東部の話し手 (①の話し手も含む) による昔話を、編著者の一人である渡辺宏紀氏が

採取したものである。話し手は当時37～89歳の男女である。

2-2. 方法

本から可能表現を探し、文脈がわかる程度の前後を切り取り、Word ファイルに入力した。詳細は稿末の別表を見ていただきたい。可能表現がそれほどたくさんは出てこないこと、冊数が少ないことから、今回は目視による拾い出しを行った。

①と③は地域的に重なっており（③の中に①が位置する）、②も大分県全域にわたっているのので、当然のことながら各本に同じ話が数話ずつある。特に③には同じ話あるいは同じような話を数話まとめて載せてある。同じ話であっても少しずつ違う表現が使われている場合もあるので、話の重複にはこだわらずに可能表現と思われるものは全て記録した。

2-3. 結果

結果は稿末の一覧表で示した。可能表現と思われるものは73例あった。

形式	可能動詞	二重可能形	補助動詞 キル	助動詞 (ラ) ルル	補助動詞 コナス	～ガ／ワ ナラン	コトガ デキル
採取数	11	5	17	32	5	2	1

表1 今回調査での可能表現形式の採取数

可能を表す形式	心情可能	能力可能	内的条件 可能	外的条件 可能	備考
可能動詞	1	6	0	4	
二重可能形	1	1	0	2	保留2
補助動詞キル	3	13	0	0	保留1
助動詞(ラ)ルル	0	5	1	20	保留6
補助動詞コナス	0	5	0	0	
～ガ／ワ ナラン	0	0	0	2	
コトガデキル	0	1	0	0	

表2 形式と文脈からとらえた意味との関係

意味分類において、2つ以上の解釈が可能で判断がつかない場合を「保留」とした。渋谷(1993)の可能のスケールに従えば、可能の意味にはBに近いAというものが存在する。また、可能の条件をAで表現しているのか、Bで表現しているのか、どちらも「読み込み可能」な場合もある。「保留」については、3-3であらためて述べることにする。

3. 考察

3-1. いつ頃の方言か

今回取り上げた昔語りの語り手には明治の終わりごろ生まれも多い。聞き取りを行ったのは、どの資料も1985～1995年の間と推定する。何度も繰り返し話して（あるいは聞いて）頭に残っている話なので、聞き取った頃に使われていた方言よりもやや古い方言が中心になっているはずである。おおむね20世紀半ば頃～20世紀末の大分方言と考えていいたろう。

3-2. 形式の意味範囲

可能表現使用の多寡は話の内容にもよるので、単純に数だけで判断することはできない。しかし、助動詞(ラ)ルルの数が次の補助動詞キルの倍近くの数であるのは注目される。また、可能動詞と二重可能形を合わせると、その数はキルとほぼ同数になることも、可能動詞の変遷を考える上で示唆に富む結果となった。

可能動詞は新しく大分方言に入ってきたとされるが、その分布は、心情可能、能力可能、そして外的条件可能にわたる。

「むかしヤ犬の方に爪があつち、木でん登りきりよつたんとこ。そんなかりちゅうこつもねえが、猫の方にヤ爪が無うち、登れんじゃつたんとこ。」(別表 可能動詞-10)

のように、同じ木に登ることについて、肯定形でキル、否定形では可能動詞を使っている。他を見るとキルの否定形キラン、可能動詞の肯定形も出てくるので、どちらかに偏って使われていたということは言えない。肯定形と否定形、新しい形の侵入はどちらなのかという一般法則もないようで、「登りきらん」を使わなかった理由は明らかではない。

二重可能形も出た。特に日田市天瀬町の「くえれん」は、

「えいもんな(怖いものは) くえれん」(別表: 二重可能形-5)

という心情可能を示しており、同じ話の同じ文脈で「おそろしゅうして、くいきらんなおつたち(恐ろしくて、食うことができないでいたと。別表 キル-10)」があることから、キルと二重可能形もほぼ同じような意味で使われていることがわかる。先行研究にあった内的条件可能と思われる例は、保留とした2例である(後述)。つまり、現時点で言えることは、キルと可能動詞、二重可能形はほとんど同じ意味範囲で使用されているということである。

また、コナスの例はすべて能力可能といえるものだった。しいて言えば、今回は「困難を乗り越えて、主体の能力で～する」という場合に限られていた。長いが例を引く。

「私のところに先祖代だいのお墓がある。その墓所にヤ最近死んだお爺さんがいけちある。二、三日ばかり前にいけたばかりじゃが、その新仏の棺桶の蓋を取ち、お爺さんの額に噛みつきこなしちから、あんたをうちの婿にしちあげよう」(別表 コナス-2)

コナスもまた、キルと同じ能力可能の意味範囲を担当しているのではないかと思われる。

一方の助動詞(ラ)ルルは、ほぼ外的条件を担当すると言えそうだが、内的条件可能としたもの1例、保留としたものが6例あった。内的条件可能とした例である。

今さらこん家の人に「うめえかつたき、とろろ汁をすすりてえ」ち言うわけもいくめえ、こう遅けりゃ食べさせちもくれめえ。また、そげなこつ言わるるもんでもねえ。若けえ旅人は、寢床にヤ入つたが、眠られんまま、家人人が眠るのを待ちよつたんとこ。(助動詞(ラ)ルル-2~3)

数の上でも今回の調査で最も多く採取され、この形式が可能表現の基盤になっているということが推測される。

～ガ/ワ ナランは、

「それに、銭ぐそひるじゃんいうち、やせ馬売つちしもうち、田植えはするこたならん。なんとか田植えをするこたあできんもんじゃろうかと考えよつたち。」(別表 ナラン系-1)

などの形で2例あった。現在は鹿児島県域のみの分布とされているが、大分方言でも外的条件としての例があった。

コトガデキルは、「コトノデキン」が一例あった。

「そりじ、走るのが速いウサギは、里に行つち、もちごめとあずきを持ち来たんと。走るこつのできんカエルは、大池の水を腹いっぱい飲み込んできたちこ。」(コトガデキル-1)

「走るこつのできん(走ることのできない)」は、この昔話の文脈では能力の低さを意味して

おり、能力可能の意味である。

3-3. 保留について

二重可能形で2例、キルで1例、(ラ) ルルで6例を保留した。これらは、どの可能条件かの候補が2つ以上ある場合であって、可能表現として意味がとれないというものではない。

- 別表 二重可能形-2・・・心情可能?内的条件可能?
 二重可能形-3・・・能力可能?内的条件可能?
 補助動詞キル-3・・・能力可能?外的条件可能?
 助動詞(ラ) ルル-2・・・能力可能?外的条件可能?
 助動詞(ラ) ルル-4・・・心情可能?外的条件可能?
 助動詞(ラ) ルル-9・・・外的条件可能「知らせられん」の省略?
 助動詞(ラ) ルル-10・・・心情可能?外的条件可能?

2つの候補は可能の条件スケール上、二重可能形-3などのように隣り合っている場合もあるが、助動詞(ラ) ルル-4のように心情と外的条件可能のように離れている場合もある。表2と合わせてみると、(ラ) ルルがかなり広い意味範囲を担当しており、能力可能をそれ以外の可能動詞、二重可能形、キル、コナス、コトガデキルなどが群雄割拠している状態が読み取れる。二重可能形も可能の意味全体に広がっているようだが、例が少なすぎるので現時点では何とも言えない。

最後に、別表で可能動詞-1とした「採るる」は自動詞と同形になるが、意味は能力可能と考えていいだろう。坂梨(1969)にある、可能動詞の出自は他動詞から自動詞形が作り出され、それが一部可能専用形になっていったことを考えると、自動詞形と可能動詞形の関係にも注意を払う必要がある。

4. まとめにかえて

今回は、73例の用例から大分方言における可能表現形式と意味の分担を考えた。その結果、助動詞(ラ) ルルの用例数が多く、意味範囲も広いことがわかった。キルやコナスは能力可能専用形式であり、可能動詞も同様の傾向、二重可能形は広く全般にわたっていることが予想される結果となった。今後、資料数を増やすことにより、臨地調査結果を支える証拠となることを期待している。この作業を通じて、大分方言の可能表現形式の変遷をより正確に知る手掛かりとした。

参考文献

- 糸井寛一・種友明(1977年)「大野川流域における可能表現」大分大学教育学部編『大野川—自然・社会・教育—』
 神部宏泰(1986年)「九州方言の可能表現法—その存立と特性—」『兵庫教育大学研究紀要』
 木部暢子(2004年)「九州の可能表現の諸相—体系と歴史—」鹿児島大学法文学部国語国文学研究室『国語国文薩摩路』第48号
 坂梨隆三(1969年)「いわゆる可能動詞の成立について」『国語と国文学』東京大学国語国文学会
 渋谷勝己(1993年)「日本語可能表現の諸相と発展」『大阪大学文学部紀要』33第1分冊
 日高貢一郎(1983年)「大分県国東半島の可能表現」大分大学教育学部『国東半島—自然・社会・教育—』

松田美香 (2004年) 「可能表現の変遷—大分郡挾間町の3世代—」別府大学会『別府大学紀要』第45号

松田美香 (2007年) 「大分方言における可能表現の地域差・世代差—通信調査の結果および考察—」別府大学会『別府大学紀要』第48号

別表 大分県の昔話語りの記録 (可能表現)

番号	書名	ページ	語りのタイトル	実際の語形	当該部分のセンテンス	地域	文脈から判断できる意味(動作主体内の能力/主体外部の条件による/心情による/主体の一時的な内定条件による)
可能動詞-1	語りによる日本の民話 豊後杵築の民話・重安アサエの語り(1988年 国土社)	20	小槌の柄	探る(自動詞)	そんごて毎日寝ちよったら、どげえしち作物が <u>探る</u> か、起けち働け。	速見郡北杵築村大字船部	能力可能 (自動詞と同形)
可能動詞-2	語りによる日本の民話 豊後杵築の民話・重安アサエの語り(1988年 国土社)	185	千手観音の手	抱ける	娘は、「わたしん赤ん坊ほどこか」ち、見廻したら、自分のない筈の片手に、不思議にも手が生えちよるんじゃち。「ああ、ありがてえ、これじわしの子が <u>抱ける</u> 」ちなあ、もう娘は大変な喜びようじ、赤ん坊をしっかりと抱いたんど。	速見郡北杵築村大字船部	能力可能
可能動詞-3	語りによる日本の民話 豊後杵築の民話・重安アサエの語り(1988年 国土社)	158	大食い	食べる	嫁さんな、七合五勺たあ多すぎると思うたけん、病人の機嫌をそのうちやいけん、言わるとおり七合五勺ん粥う炊いち、枕元まじ持っち行くと、吉吾さんな、そん粥う最後ん一杯分ほど残しただけじ、たちまちペロリち平らげしもうた。さすがん嫁さんも呆れはてち、「たっ一杯どま残さんと、みな食うちしまや良かったに」ち、腹あ立てち言う、吉吾さん、「七合五勺ん粥がみな <u>食える</u> ごつありや、おりや悪いち言うち寝ちよらせん」	速見郡北杵築村大字船部	能力可能
可能動詞-4	大分のむかし話(1976年 日本標準)	24	大みそ日の大りよう	こせそう(こせる)	「うちにああ、もう銭がひとつもねえで。これじゃ、正月が <u>こせそう</u> にねえで。」と、言うたち。	豊後高田市	外的条件可能
可能動詞-5	大分のむかし話(1981年 日本標準)	39	道三郎さんの大へビ退治	行ける	それからのう、こん近所じゃ病人もうんとへったちゅうこつちやが、前田富士には、ま物がおらんこちになったんで、近所ん人が安心して、やめ <u>行ける</u> ごちになったちゅうこつちや。	東国東郡国見町	心情可能
可能動詞-6	大分のむかし話(1991年 日本標準)	148	クモ淵	帰っち来れん	小津留にクモ淵というところがあつてなあ。むかしから、ひとりで行くと帰ち <u>来れん</u> ごつなるといふ言ひ伝えがあつたんじや。	大野郡三重町	外的条件可能
可能動詞-7	大分のむかし話(1992年 日本標準)	154	スッポン売り	聞きとれん	町からもどつきた吉四六さんが、スッポンの売れんこつち、かかんおへまどんに話すと、「吉四六さん吉四六さん、そげえ早口じ「スッポンスッポン」いうたつてんわからんのじゃきい、まच्चとゆつくりいわにや、そりやあ町の人も <u>聞きとれん</u> 。」ちゆうたら、「おへまどんよい、ふんありもうおれいゆつくりいうわい。」	大野郡野津町	外的条件可能
可能動詞-8	国東半島の民話(1979年 文献出版)	21	豊後ん牛「忠太郎」	いびれん	松行の人が上がつち見ると、牛木をあべこべに置いちゃるから、みんなで当たり前のようによしよと思うが、 <u>いびれん</u> (動かせない)のじや。	国東町大恩寺	能力可能
可能動詞-9	国東半島の民話(1984年 文献出版)	48	石屋の熊公	動きがとれん	怪我の寝床の上で、熊公は考えたんじや。「あんな強い雷様でさえ、石の上に落つちや尻もぶち萎えちしもうち <u>動きがとれん</u> 。矢張り石は強い。だがそん強い石を砕くのが石屋じゃねえか。」	国東町成仏	能力可能
可能動詞-10	国東半島の民話(1986年 文献出版)	63	猫の爪	登れん	むかしや犬の方に爪があつち、木でん登りきりよつたんどこ。そんかわりちゆうこつちもねえが、猫の方に爪が無うち、 <u>登れん</u> じやつたんどこ。	武蔵町内田	能力可能
可能動詞-11	国東半島の民話(1997年 文献出版)	143	金の鎖	登れん	山姥は上向いち、「なつとしち登つたか」ちいうたら、姉さまが、「そきある油雑巾ぬ、ふきふき登つた」ち答えたんじや。山姥は油を椀ん木にひっ付けひっ付け登らうとするけどん、滑ち <u>登れん</u> もんじやき妹が笑うと、「どういてん <u>登れん</u> 」ち山姥がいうたんじや。	武蔵町内田	外的条件可能
二重可能形-1	語りによる日本の民話 豊後杵築の民話・重安アサエの語り(1988年 国土社)	20	小槌の柄	働ける	ばか言え、こん暑いのに、何じ <u>働ける</u> か。	速見郡北杵築村大字船部	外的条件可能
二重可能形-2	語りによる日本の民話 豊後杵築の民話・重安アサエの語り(1988年 国土社)	80	竜神の形見	食べれん	じつは、少々こつちや雨が降らんから、三人の娘のうち一人を竜神さまに捧ぐる約束したんじや。じゃが、どん娘に行けちゆうこつちも言いきらんじ、日夜ままも <u>食べれん</u> じ心配しよるんじや。	速見郡北杵築村大字船部	心情可能? 内的条件可能?
二重可能形-3	語りによる日本の民話 豊後杵築の民話・重安アサエの語り(1988年 国土社)	116	餅は白狐	食べれん	「なし食べんのかい。こりやあアボちいうおいしいもんじやが、 <u>食べれん</u> ごつありや、娘が好きじやから、お土産に持っち帰ちよくれ」	速見郡北杵築村大字船部	能力可能? 内的条件可能?

二重可能形-4	大分のむかし話(1997年 日本標準)	239	黒雲山のサル退治	いけれん	そうこうしよつたら、夕方になつち、久作が帰つちきた。「久作、久作。きゆうは、おまえをやといたさい。こげなふうじゃが、おまえ、どげなふうか。」ち、いうたら、「そらまあ、きゆうはおせえき、いけれん。ほなまあ、夜が明けたら、さつこ行くこう。」	日田郡天瀬町	外的条件可能
二重可能形-5	大分のむかし話(1999年 日本標準)	248	もちをこわがった男	くえれん	「おら、あんた、ひとつくちえらんかい、こりやなかなうめえもん。」ち、いうけど、「おりや、そん、えじいもんなくえれん。」ち、いうち、なかなかくおうちやいわんち。	日田郡天瀬町	心情可能
補助動詞キル-1	語りによる日本の民話 豊後杵築の民話・重安アサエの語り(1988年 国土社)	25	長い名前	覚えきらん	そげえ長い名前は覚えきらんから、紙に書きよくれ。	速見郡北杵築村大字船部	能力可能
補助動詞キル-2	語りによる日本の民話 豊後杵築の民話・重安アサエの語り(1988年 国土社)	80	竜神の形見	言いきらん	じつは、少々なつこつじゃ雨が降らんから、三人の娘のうち一人を竜神さまに捧ぐる約束したんじや。じゃが、どん娘に行けちゆうこつも言いきらんじ、日夜まも食べれんじ心配しよるんじや。	速見郡北杵築村大字船部	能力可能
補助動詞キル-3	大分のむかし話(1983年 日本標準)	62	ミノ虫になつたばあさん	動ききらん	「すいつきたけりやあ、すいつけ。」ち、言うたらな、小判がおおきなこつすいついちなあ。じいさんが帰らよつたら、ばあさんが動ききらんようになつちよつたんと。小判をひきむして、ふたりは大きなおげんになつたんと。	速水郡日出町	能力可能？ 外的条件可能？
補助動詞キル-4	大分のむかし話(1984年 日本標準)	67	花さかじい	さかせる	「そこにおる者はなに者か。」「日本一の花さかじいでござる。」ちゆうたら、「さかせきなら、さかせちみよ。」ちゆうから、そん灰をまくと、かれ木に花がさいたちゆうのじやあ。	速水郡日出町	能力可能
補助動詞キル-5	大分のむかし話(1987年 日本標準)	102	ゆうれいになつたヘビ	もどりきらん	今でも女のゆうれいが出るのは、ありや、ヘビがばげち、もとの姿にもどりきらんでおるんで。	大分市	能力可能
補助動詞キル-6	大分のむかし話(1989年 日本標準)	112	カッパのみぞあえ	かみきらん	「ふうん、にんげんたあ、なんとまあ、菌のじょうぶなもんじやのう。わしやかみきらん。わりしにかみやあ、菌がおるん。」	臼杵市	能力可能
補助動詞キル-7	大分のむかし話(1990年 日本標準)	145	はねのはえた与平さん	登りきる	ある日、与平が、原の畑をたがやしに行きよつたら、村の子どもたちが集まってきた、「与平やん、与平やん、おまえ天登松に登りきるな。」というたんと。与平は、「登りきれえじや。」というち、松の木のでつぱまで登つたんと。	大野郡三重町	能力可能
補助動詞キル-8	大分のむかし話(1994年 日本標準)	175	カッパの恩返し	おけきらん	頭んざらに水がたまちよると千人力もあるけんど、水がねえごつなりや一人日力もねえごつななんのと。そしち、くによくにやじ、もうおけきらんごつなつちしもうち、そんまめえしちよきや、そいつがひからびちしもうち死んじしもうちと。	大野郡千歳村	能力可能
補助動詞キル-9	大分のむかし話(1996年 日本標準)	238	黒雲山のサル退治	いっきらん	「どうでん、これにいっちょらな、おひめさまん、おりばはねえ。」「いっちえいでみよ。」ち、いけん、なかなかくのお方がまっくりいもんなき、だあれんいっちえいかんち。「こらあ、どんこんいっちやいっくらんざい。いっちえいっちきるもんねえか。」ち、いけん、だあれんいきてがねえ。	日田郡天瀬町	能力可能 (勇気)
補助動詞キル-10	大分のむかし話(1998年 日本標準)	246	もちをこわがった男	くいきらん	まるめしもうと、自分の前に持ってきたき、もう、えずして、「くえ。」ち、いうけど、くだこじやねえ。どんこんえずしてこたえんもんなき、みよつたら、「えんりよせんち、くえ。」ち、またいうち、いうばつてん、どんこん、くだこじやねえ。おそろしくして、くいきらんおつち。	日田郡天瀬町	心情可能
補助動詞キル-11	国東半島の民話(1978年 文献出版)	20	豊後ん牛「忠太郎」	上げきらん	家ん棟のすぐ近くまで引き上げる、大きな牛木を「やあやあ」いうち、大勢の人が総綱(しゆる)縄で吊り上げちよるんじや。忠太郎はそりゆう見ち、「惜けねえこつちやのう。そん若け者たちが、大層人数掛かちよつて、上げきらんか。」ち笑いながらいうたら、松行人が聞いち怒つち、「小父やん、あんたがそげいうなら、上げきるえ。」ちいうたんじや。「上げきらんこつもねえか。」ちいうて、知らん顔をしち行こつたら、松行人のたたちが呼び戻したんち。	国東町大恩寺	能力可能
補助動詞キル-12	国東半島の民話(1980年 文献出版)	21	豊後ん牛「忠太郎」	切りまわしきらん	「惜けねえこつちやのう。俺が一人で上げちやつたのを、上じみんで切りまわし(ぐるりと反対に方向を変える)きらんかや。」ち笑つたけんどん、みんながいびりきらんじや。	国東町大恩寺	能力可能
補助動詞キル-13	国東半島の民話(1981年 文献出版)	21	豊後ん牛「忠太郎」	いびりきらん	「惜けねえこつちやのう。俺が一人で上げちやつたのを、上じみんで切りまわし(ぐるりと反対に方向を変える)きらんかや。」ち笑つたけんどん、みんながいびりきらんじや。	国東町大恩寺	能力可能
補助動詞キル-14	国東半島の民話(1983年 文献出版)	33	芸は身を助くる	放るきる(ママ)	「こん可愛い顔した嫁女が、追い出されるようなそげな大きな尻を放(へ)るきるのかえ。」	国東町葦葺	能力可能
補助動詞キル-15	国東半島の民話(1985年 文献出版)	63	猫の爪	登りきりよつた	むかしや犬の方に爪があつち、木でん登りきりよつたんとこ。そんかわりちゆうこつちねえが、猫の方に爪が無くち、登れんじやつたんとこ。	武蔵町内田	能力可能
補助動詞キル-16	国東半島の民話(1990年 文献出版)	93	高千穂(たかちゆう)話・恐ろしい餅	食べきらん	「はい(どうぞ)、食べい(たべなさい)。」ちいうけんどん、餅子は餅初めち見たから、おどし恐ろしくして食べきらんじや。「食べきらん。おでえ、おでえ。」ちいうち後退りするばかりじや。	武蔵町内田	心情可能
補助動詞キル-17	国東半島の民話(1991年 文献出版)	97	高千穂話・餅	食べきらん	餅は首を振つて、「い、や。俺はそりな好かんじや。」ちいうんとこ。どげしちん食べんじや。恐ろしいから食べきらんじや。	国見町大熊毛	心情可能
助動詞(ラ)	語りによる日本の民話 豊後杵築の民話・重安アサエの語り(1988年 国土社)	21	小槌の柄	食べらるる	そん小槌を振ると、何でん欲しい物が出る。そりじ米でん麦でん打ち出しよ。そうすれば、働かんでも食べらるる。	速見郡北杵築村大字船部	外的条件可能
助動詞(ラ)	語りによる日本の民話 豊後杵築の民話・重安アサエの語り(1988年 国土社)	40	とろろ汁	言わるる	今さらこんな人にならうめえかつたき、とろろ汁をすすりてえ。」ち言うわけもいなくえ、こう選けりや食べさせちもくれめえ。また、そげなこつ言わるるもんでもねえ。	速見郡北杵築村大字船部	能力可能？ 外的条件可能？
助動詞(ラ)	語りによる日本の民話 豊後杵築の民話・重安アサエの語り(1988年 国土社)	40	とろろ汁	眠られん	(前の文の続き)若けえ旅人は、寝床にや入つたが、眠られんま、ま、家人人が眠るのを待ちよつたんとこ。	速見郡北杵築村大字船部	内的条件可能
助動詞(ラ)	語りによる日本の民話 豊後杵築の民話・重安アサエの語り(1988年 国土社)	52	猿と蟹	替えられん	「そん握り飯う、こん柿種と取り替えちくりい。」ち、言う。蟹が、「おりが拾うたんじやさい、登えられん。」ち、言うんを、無理い取り替えち、猿あそん握り飯う、うまそうに平らげたそうな。	速見郡北杵築村大字船部	心情可能？ (禁止)
助動詞(ラ)	語りによる日本の民話 豊後杵築の民話・重安アサエの語り(1988年 国土社)	70	天道さん金の鎖	登られん	妹が上から、カンテラン油を流したけん、ツルツル滑ち登られん。	速見郡北杵築村大字船部	外的条件可能

助動詞(ラ)ルル-6	語りによる日本の民話 豊後杵築の民話・重安 アサエの語り(1988年 国土社)	72	きょうだい 星	帰られん	山芋がなかなか見つからんじ、ウロウロしよううちい、日が暮れちしもうた。「どうしたもんかのう、家にお父さんが待つちよるが」ち言けんど、道が判らんじ、帰らうにも帰られん。	連見郡北杵 築村大字船 部	能力可能 (になっ ているが)
助動詞(ラ)ルル-7	語りによる日本の民話 豊後杵築の民話・重安 アサエの語り(1988年 国土社)	80	竜神の形見	言われん	「お父さん、お母さん。どういう心配ごつがあるのかえ、子に言われんごつはあ るまいがえ」ち、たずねた。	連見郡北杵 築村大字船 部	能力可能
助動詞(ラ)ルル-8	語りによる日本の民話 豊後杵築の民話・重安 アサエの語り(1988年 国土社)	84	竜神の形見	帰られん	わたしは、皆が知つちよるように、竜神さまのところへお嫁に来たもんじやか ら、今さら帰るにも帰られん。	連見郡北杵 築村大字船 部	外的条件可 能
助動詞(ラ)ルル-9	語りによる日本の民話 豊後杵築の民話・重安 アサエの語り(1988年 国土社)	94	蛙の報恩	しられん	娘に子どもがでくようになったけんど、蛇ん子じゃなんか言う話は世間 にやしられん。一人娘のごつじゃし、どげえしたらいいか困つち、泣きよん のじゃ	連見郡北杵 築村大字船 部	能力可能?
助動詞(ラ)ルル-10	語りによる日本の民話 豊後杵築の民話・重安 アサエの語り(1988年 国土社)	149	薪買い	売られん	「そりゃ高え、そげな高え薪物を買うたごつがねえ、半分にまけちよけ」ち、言 う。薪物売りは、「半分にまけちや元も子もねえ、そげえなくは売られん」「仕方 ねえ、せつか、運んじもろうたが、もつち帰つちくりい」	連見郡北杵 築村大字船 部	外的条件可 能?
助動詞(ラ)ルル-11	語りによる日本の民話 豊後杵築の民話・重安 アサエの語り(1988年 国土社)	150	危ない暮	(座つち)お らるる	吉吾さんな、いっつもおもしろうねえ。あげな白黒ん石う板ん上い並べち、何 がおもしろえもんか。ひんがな一日、よう飽きもせんじ、じつと座つちおらる ゑもんじや。	連見郡北杵 築村大字船 部	能力可能
助動詞(ラ)ルル-12	語りによる日本の民話 豊後杵築の民話・重安 アサエの語り(1988年 国土社)	152	盗み食い	食わりよう か(食われ る)	「久兵衛さんが牡丹餅う持ち来ちくれたんじ、本堂ん金仏さめえお供えし ちよつたところが、あんまりうまそうじゃったんじやろう、金仏さまがみんな 食うてちしもうた」「ばかいい、吉吾、どげえしち金仏さまが牡丹餅う食わりよ うか」「そげえ言うて、食うたものあしょうがあるめえ。そん証拠には、金仏 さまん口んはたあ見みなりい」	連見郡北杵 築村大字船 部	能力可能
助動詞(ラ)ルル-13	語りによる日本の民話 豊後杵築の民話・重安 アサエの語り(1988年 国土社)	163	継子の筋句	帰られん	「お前は袋がいっぱいになったからいいけんど、わしやまだいっぱいにならん から帰られん。まいつとき待て、まいつとき待て」	連見郡北杵 築村大字船 部	外的条件可 能
助動詞(ラ)ルル-14	語りによる日本の民話 豊後杵築の民話・重安 アサエの語り(1988年 国土社)	166	六部殺し	通られん	むかし、弘法大師が波多方峠を越そうと、野原を通りよつたら、かんからん蔓 がお衣ん袖い引つかかつち離れん。そりし、持ちよつた杖じ叩いち、やどと こをきを切り放したそうじや。そりから後、そこん所だけかんからんが生えんよ うになった。他の所はかんからんだけ通られんごつ茂つちよる。	連見郡北杵 築村大字船 部	外的条件可 能
助動詞(ラ)ルル-15	語りによる日本の民話 豊後杵築の民話・重安 アサエの語り(1988年 国土社)	175	があたり相 撲	泳がるる	いっつもは日中じゃねえと水浴びがでけんが、こん日にやがあたりが一匹もお らんから、おおびらに泳がるる。	連見郡北杵 築村大字船 部	外的条件可 能
助動詞(ラ)ルル-16	語りによる日本の民話 豊後杵築の民話・重安 アサエの語り(1988年 国土社)	186	千手観音の 手	いかれん	夕日長者一家は、殿さまからたいそなうな置きをうけち、それからというもん な、夕日が沈むようにおちおれち、いかれんごつつなつたんと。	連見郡北杵 築村大字船 部	外的条件可 能
助動詞(ラ)ルル-17	語りによる日本の民話 豊後杵築の民話・重安 アサエの語り(1988年 国土社)	188	一宮金次郎	いかれん	ある田舎町い、お侍ん家があつたんと。たいそなう広いお屋敷じ、立派な建物 じやつたが、そのお侍んさんが、あんまり贅沢をするもんじ、家がいかれんご ちなつちしもうたんとこ。	連見郡北杵 築村大字船 部	外的条件可 能
助動詞(ラ)ルル-18	語りによる日本の民話 豊後杵築の民話・重安 アサエの語り(1988年 国土社)	196	お初観音	見せられん	「こりや待て、お初、何しにこげな山ん頂ん近くじ、お初に追いついた若旦那 が、「こりや待て、お初、何しにこげな山ん申い来たんか。そん手に持つちよる 物な何か、見いし」ち、追まると、お初は、「見せられん」ち、風呂敷を後ろ手に隠 すんじや。	連見郡北杵 築村大字船 部	外的条件可 能
助動詞(ラ)ルル-19	大分のむかし話(1977 年 日本標準)	24	大みそ日の 大りよう	上がられん	カモを岸のねきに引き上げちから、じいあんも上がろうとしたんじやが、ふん どしが重とうて。どげんしても上がられんじやと。見るとな、ふんどしの中 へ、いっぺえフナがへいりこんじち、そうじやのう、三目もあつたじやろ うか。そのまつかえち、岸の上へ上がったんと。	豊後高田市	外的条件可 能
助動詞(ラ)ルル-20	大分のむかし話(1978 年 日本標準)	29	吉吾どんの サバ売り	ほどかれん	吉吾どんをむりやり入れち、もう内から手が出らんように、外からかんじがら ぬにくびつてもうち、内からほどかれんごちしてしもうた。	西国東郡 香々地町	外的条件可 能
助動詞(ラ)ルル-21	大分のむかし話(1979 年 日本標準)	29	吉吾どんの サバ売り	出られん	「ふん、そんなら、われここでもまっつよれ、どうせこりから出られんじやろ う。そんたから物はどけおいちよるかや。」	西国東郡 香々地町	外的条件可 能
助動詞(ラ)ルル-22	大分のむかし話(1980 年 日本標準)	30	吉吾どんの サバ売り	出られやせ ん	吉吾んやつが死んだちわかちから村んもんが取るき、ほんならちよいとこ こじまたせちよう。どうせ出られやせんじや。	西国東郡 香々地町	外的条件可 能
助動詞(ラ)ルル-23	大分のむかし話(1982 年 日本標準)	42	じゃの目 のかさ	住まるる	そこは、ほらあながあつち、木をこずんじ、なんとか人が住まるるようにし ちやるのじゃが、たいへんな家じや。	東国東郡武 蔵町	外的条件可 能
助動詞(ラ)ルル-24	大分のむかし話(1985 年 日本標準)	72	うらさんと おさんどん ギツネ	食べられん	なん年かたつて、おさんどんは年をとつて弱り、食べられんようになったもん じやあから、「うらさんのとこに行けば、きつと、やしのうちくるじやろ う」ちゆうんで、よろよろしながらたずねて行つたそうな。	速水郡山香 町	能力可能
助動詞(ラ)ルル-25	大分のむかし話(1988 年 日本標準)	103	小僧さんの とんち	くわるん	おれも、毎日、おたいやにさがつたりしよんに、どうしちくわせんじやろ う。なんとかしてくわるん方法はねかろうか。	北海部郡佐 賀岡町	外的条件可 能
助動詞(ラ)ルル-26	大分のむかし話(1995 年 日本標準)	229	ちようざり こ	いかれん	「ちようざりこ、ちようざりこ…(名前)…どんごろべえ、じいちゃん、助け に来たぞ。ち、いうたけんどが、はいっていくちゆうてん、ちよいとはいって いかれん。しょうがねえき、おじいさんが、「はしごをとつてくる。」ち、どん どん、どんどん走つち帰つちみた。	玖珠郡北山 田	外的条件可 能
助動詞(ラ)ルル-27	国東半島の民話(1989 年 文献出版)	87	継子なしの 筋句	離されん	「そげえ、侍の子がふげとりをすりや(こつそりと盗み食いをする)、なつとす りやい、かち、あとより(後妻)に尋ねたんじや。「なつとすりやい、かちいう ても、目も離されんくれいじやき、わしや仕事も出来ん」とあとよりは、尾巻 (おひれ)を付けち大きくいうんじや。	武蔵町内田	外的条件可 能
助動詞(ラ)ルル-28	国東半島の民話(1992 年 文献出版)	100	高千穂話・ 元結の素麺	食べられた 物	「うめえき、はい(どうだ)食べちおくれ」ち婿子が進めちくれたが、なんは(い く)娘の婿子が進めてくれたち、食べられた物(もん)じやなつたんとこ。	武蔵町内田	心情可能 能力可能?
助動詞(ラ)ルル-29	国東半島の民話(1993 年 文献出版)	114	高千穂話・ 餅	食わるる	餅に付いよつた土を、手でなまわしち落とち、嫁さんな食べたち、それ を見た婿さんな「そりや、食わるる物か」ちいうたち、嫁さんが「お正月かお祭 りじやなけりや、餅や、なかなか掲かせんので、あんたが初詣きをして来たき、 両腕が折角掲いあげたんに、こんなおいしい物が減多にあるかえ」ち。	杵築市八坂 熊丸	外的条件可 能?

助動詞(ラ ルル-30	国東半島の民話(1994 年 文献出版)	118	ぶすの一生	食われるか	そりじゃもんじゃから、ぶすは怒っち、くどん(かまど)中ん灰を十能じすくうち、釜ん中放たり込み、放たり込みしたから、飯は灰まめし(灰だらけ)になっちしもうたんと「みよ。こんなこちになつたき、食われるか」ち、ぶすはひとり言いながら、裏ん敷、釜を放たりぶっせ(捨てた)ところ、	武蔵町内田	外的条件可能
助動詞(ラ ルル-31	国東半島の民話(1995 年 文献出版)	128	ぶすの話	帰られぬえ	「和尚(おっ)さんがなんも、かんもひっさらえち焚えちしまえちいうたき、みんな火にくべた」といいましたんじや。和尚さんが、「阿呆が。くべちしもたんか。こりじゃ帰られぬえが、なんか隠すもんなねえか」とい、ましたが、みんなくべちないんです。	国見町赤根	外的条件可能
助動詞(ラ ルル-32	国東半島の民話(1998 年 文献出版)	150	半造が淵	行かれん	「今夜(こいさ)、陽原(ひらばる)にお産がすんだが、行かんかや」ちいうたようにあつち。そうしたら半造が宿を借りちよる大きな木が、「今夜、お客があつち、行かれんがのう」ちいうたようにあつち。	武蔵町内田	外的条件可能
補助動詞コ ナス-1	国東半島の民話(1996 年 文献出版)	143	金の鎖	登りこなさん	山姥は桜ん木の上を見ち、「われんちやそきおるのか」ちいうち、急いぢ登ろうとしたが、桜ん木じゃもんじゃき、滑ち登りこなさん。「なつとしぢ登ったか」ちいうたら、姉さまが、「そきある油雑巾ぬ、ふきふき登った」ち答えたんじや。	武蔵町内田	能力可能
補助動詞コ ナス-2	語りによる日本の民話 豊後杵築の民話・重安 アサエの語り(1988年 国土社)	99	婿入りの難 問	噛みつきこ なし	「私のところに先祖代いのお墓がある。その墓所じゃ最近死んだお爺さんがいけちある。二、三日ばかり前にいけたばかりじゃが、その新仏の棺桶の蓋を取ち、お爺さんの顔に噛みつきこなしちから、あんたをうちの婿にしちあげよう」	速見郡北杵 築村大字船 部	能力可能
補助動詞コ ナス-3	語りによる日本の民話 豊後杵築の民話・重安 アサエの語り(1988年 国土社)	122	六波羅堂	食わせこな さん	「あん奴が、子どもんじよう作ち、食わせこなさんから、うちの米と小豆を盗つたに相違ねえ」ち、勝手に決めち、隣ん家の様子をのぞきよつた。	速見郡北杵 築村大字船 部	能力可能
補助動詞コ ナス-4	国東半島の民話(1987 年 文献出版)	76	蛇婿入り	沈めこなさ ん	最初(はな)んくちや(初めは)、瓢箪ぬブクブク竜神は沈めよつたけどなあ、次の瓢箪ぬ沈めよつたすると、初め沈めた瓢箪がコロッと浮き上がつち、千個の瓢箪ぬ、とうとう夕方までかかってん、沈めこなさんじやち。	杵築市八坂 熊丸	能力可能
補助動詞コ ナス-5	国東半島の民話(1988 年 文献出版)	76	蛇婿入り	沈めこなさ ん	さすがの竜神も疲れ果てちしもうち、娘を嫁にするこつを諦めちなあ、「お前は利口な女子じや。おりな、なんぼ神通力があつてん、千個の瓢箪ぬ沈めこなさんから、お前を嫁にするのはやめたから帰れ」ちいうち。	杵築市八坂 熊丸	能力可能
ナラン系- 1	大分のむかし話(1993 年 日本標準)	160	天のほり	するこたなら ん	やせ馬じゃあけど百姓にや大事なもんで、馬か牛が「おらにやあどうしてん五月にやあたつちいかんわけじやな。それに、銭ぐそひるじやんいうち、やせ馬売ちしもうち、田植えはするこたならん。なんとか田植えをするこたあできんもんじやろうかと考えよつち。	大野郡野津 町	外的条件可能
ナラン系- 2	国東半島の民話(1982 年 文献出版)	23	山姥の三人 の子供	先き行きが ならん	暫くたつと、山姥の赤ん坊も大分大きくなつたので、山姥はお婆さん方えお礼に来ましたんじや。そんなとき、「三人の赤ん坊に名前がなければ、これから先行きがならんが。お婆さん三人の赤ん坊に、なんち名前を付けたらよからうか」	国東町峯 巖	外的条件可能
コトガデキ ル-1	大分のむかし話(1975 年 日本標準)	11	箭山(やや ま)のサル とウサギと カエル	走るこつで きん	そりじ、走るのが速いウサギは、里に行ち、もちごめとあずきを持つち来たんと。走るこつできんカエルは、大池の水を腹いっぺい飲み込んできたち。	中津市	能力可能